

IV-28

都市内高架道路のイメージと汚れに関する一考察

長大地域計画部 正会員 ○山田あかね
 阪神高速道路公団 正会員 徳永 法夫
 大阪市立大学工学部 正会員 日野 泰雄
 長大地域環境計画部 正会員 是澤 元博

1. はじめに

都市内高架道路は、多くの人が行き交う市街地に立地しており、都市景観にもたらす影響が大きいと考えられる。昨今、都市内高架道路には周辺環境との調和、景観性の向上が要求され、様々な景観対策が積極的に実施されている。しかしながら、都市内では後日汚れが発生し、景観対策を施しても目的とする美観を長期に維持できず、その景観性を損なうという問題が生じている。そこで本研究は、沿道居住者・勤務者に対して意識調査を実施し、高架道路と周辺景観の印象及びイメージについて分析を行うと共に景観整備の効果や汚れ対策の必要性について検討を行った。

2. 意識調査の概要

高架道路の景観整備を行っても、汚れによってその機能が損なわれるという問題が生じている。そのため、阪神高速道路の中でも景観整備を行っている景観整備地域（14箇所）と比較用として景観整備地域に隣接する景観未整備地域（5箇所）の計19箇所において行った。調査方法は、阪神高速道路の沿道居住者・勤務者に対して周辺景観と高架道路について訪問配布・回収によるアンケート調査を実施した。調査数は、1,158人で回収率は62%である。データの属性は、男女比がほぼ1対1で、年齢構成は、20代が3割、30代～60代がそれぞれ1～2割ずつとなっている。職業は、会社員が約7割、自営業が約1割である。

3. 周辺景観の印象と高架道路の影響

沿道居住者・勤務者の約5割が、高架道路周辺景観の印象について良くないと答えている（図-1）。その評価要素を見ると、車道や歩道といった沿道道路要素が約5割を占めているが、印象が悪くなるにつれて高架道路や高架下等、高架道路に関する要素が占める割合が高くなっており、高架道路が周辺の道路景観の中で悪い印象を与える要素になっていると判断できる（図-2）。

4. 高架道路に対するイメージ分析

沿道居住者・勤務者の高架道路に対する18のイメージ（表-1）から高架道路の主なイメージ要因及び景観整備の影響について検討した。

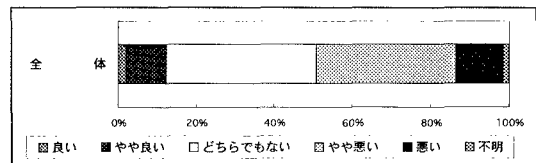


図-1 周辺景観の印象

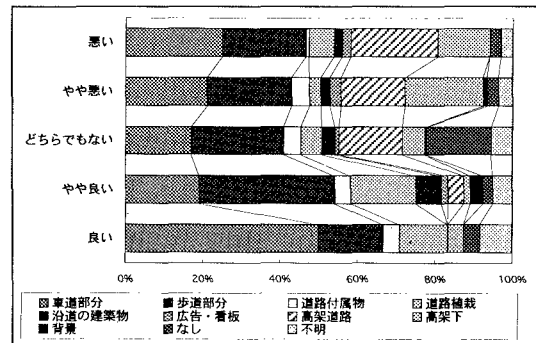


図-2 周辺景観の印象要素

表-1 高架道路のイメージ尺度

1	大きいー小さい	7	明るいー暗い	13	潤いのあるー乾いた
2	男性的ー女性的	8	鮮やかーくすんだ	14	自然なー人工的な
3	すがすがしいーうつとうしい	9	柔らかなーでこぼこした	15	開放的なー閉鎖的な
4	重厚なー軽薄な	10	穏やかなー騒がしい	16	きれいなー汚い
5	硬いー柔らかい	11	すがすがしいーうつとうしい	17	新しいー古い
6	個性的ー一般的	12	身近なー疎遠な	18	好きー嫌い

キーワード：高架道路、意識調査、イメージ分析、景観整備、汚れ対策

連絡先：〒541-0056 大阪市中央区久太郎町4-1-3 TEL.06-252-8121 FAX.06-25-4583

因子分析の結果の一部を図-3に示す。

因子分析で得られた因子は、因子No.1「新しさ、きれいさに関する評価因子」、No.2「大きさ、規模に関する因子」、No.3「周辺環境に関する因子」、No.4「親近性の因子」、No.5「配置に関する因子」、No.6「個性の因子」の6つで、これが高架道路の主なイメージ要因であると考えられる。特にNo.1「新しさ、きれいさに関する評価因子」は、寄与率が最も高く、汚れによる影響が大きい因子であると考えられる。

次に各調査地域の因子得点の平均をプロットした結果の一部を図-4に示す。景観整備の影響が見られた因子は、因子No.1「新しさ、きれいさに関する評価因子」で、特に景観未整備地域においては、高架道路に対する評価が悪い傾向が見られた。

5. 高架道路に対する印象とその理由

沿道居住者・勤務者の約5割の人が、高架道路の印象について良くないと感じている。また、景観整備地域より景観未整備地域の方が、高架道路の印象が良くないと感じる人の割合が高くなっている傾向が見られた（図-5）。

高架道路の良い理由としては、「近代的である」と答えている人が約3割で最も多く、高架道路を都市の象徴としてとらえる人が多い傾向が見られた（図-6）。悪い理由としては、「汚れ」を挙げる人が約5割で最も多く、次に「暗さ」「構造物の大きさ」となっている（図-7）。高架道路の印象は、デザイン等の構造物そのものの形態、色より圧倒的に汚れによって評価されているといえる。

6. まとめ

近年、都市内高架道路に対して周辺環境との調和、景観性の向上を目指して景観整備が行われてきた。景観整備の効果については、景観未整備地域に比べ景観整備地域の方が、多少印象が良いという傾向が見られたが、全体的にみると、高架道路は都市構造物の中でも特に悪い印象を与える要素として挙げられており、高架道路自体に対しても評価は低くなっている。これは、高架道路が主に「新しさ」や「きれいさ」といったイメージで評価されているため、汚れが高架道路の印象を悪くする大きな原因になっていると考えられる。よって今後、高架道路の汚れに対して効果的な対策を行うことで、都市構造物としての高架道路の景観の評価が改善されるものと考えられる。

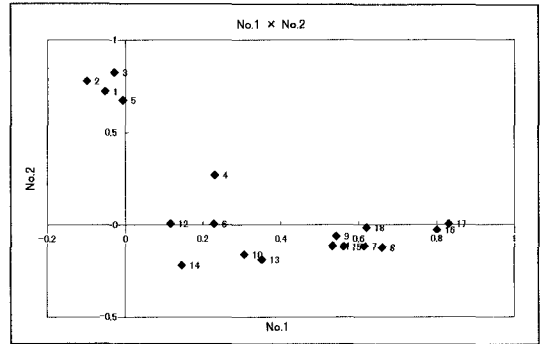


図-3 イメージ尺度の分布

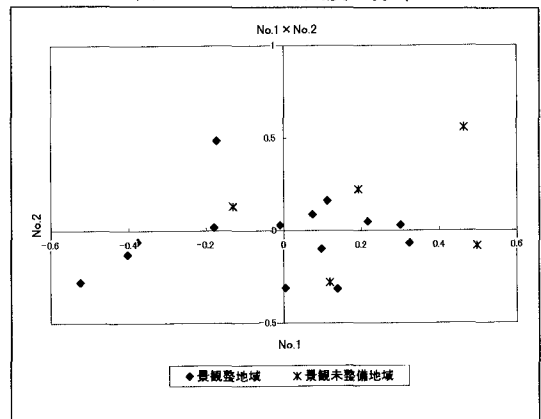


図-4 調査地域の分布

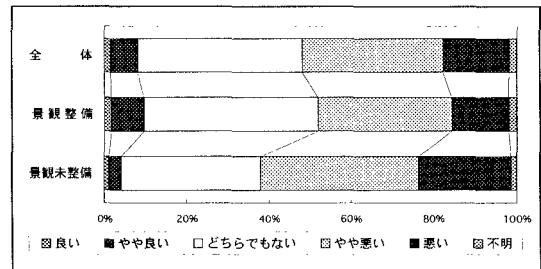


図-5 高架道路の印象

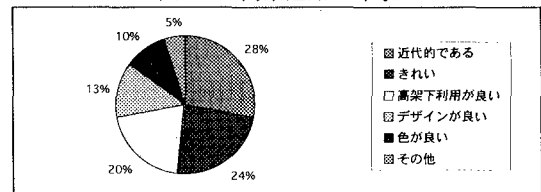


図-6 良い印象の理由

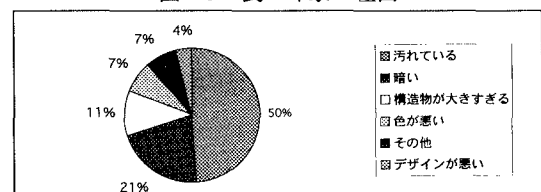


図-7 悪い印象の理由